

イントロ

前回の KojiMemo(38)発信の呼びかけに対して、数人の方から「格差是正」についての参考情報を教えていただき、ありがとうございました。さっそく書籍購入、ネット調査などでフォローしたのですが、結論として表題のような印象です。経済学者が悪いのではなくて、それだけ解決困難ということなのでしょう。

調査情報

1) 新国富論 馬奈木俊介 他 (岩波ブックレット No.961)

これまで使われてきた GDP を中心とした経済指標だけではなく、「豊かさ、幸福感」に寄与するさまざまな指標が考えられる。 たしかに、地方創生政策を考えるうえでは、参考になりそう。格差是正にも、わずかに関係するかな・・・

2) ピケティ「21世紀の資本」 数冊の本と、ネット情報

経済学問としては、その功績は称賛に値するのかもしれない。ベストセラーになったらしい。

しかし、格差是正の対策としては、誰でもが思いつくような「世界レベルの累進資本課税」という、およそあり得ないような政策で結んでいるに過ぎない。小生の目から見れば、実社会には役に立たない「学者の数字の遊び？失礼」 多くの教養のある人が飛びついた理由も分った気がする。インテリ層の上から目線で、分析されており、問題の下層への思い入れは、ほとんど深められていない。増田(*3)の主張に賛同。

3) ノーベル経済学賞 2018 KojiMemo(36) ノーベル経済学賞がっかり 参照 (*1)

4) 貧困の経済学 (上下) マーティン・ラヴァリアン 柳原 透 監訳 (2018年9月初版)

合計 1000 ページ近くの大作。 ピケティよりは真面に取り組んでいる

5) ノーベル経済学賞 2019 貧困問題に見る演繹的思考の限界とエビデンスの破壊力 (*2)

ノーベル経済学賞審査委員たちも、やっと現状の世界の緊急課題に着目し始めたようである。

所感

- a. 経済活動という狭い範囲ではなく、人間のあらゆる活動、全人格を律するような新しい規範（究極は宗教的なアプローチに近づかざるを得ないかも）が求められている。おそらくそれは、人間活動だけではなく、地球上のあらゆる生命体（動植物、細菌を含む）を包含する概念に立脚したもの、となるであろう。
- b. 小生が数年前からこの問題に取り組み始めたのは、別に巨額の富を得た連中がけしからん、と思っているわけではなく、国際社会からテロを始め非社会的な行動に走る不満分子の発生を抑制したいからです。ゴマメの歯ぎしりに終わらせたくない。

以上

(*1) http://www.sparj.com/kojmemo/KojiMemo36_NovelEconomyDissappointed.pdf

(*2) <http://www.sparj.com/report/NovelEconomy2019Shimada.pdf>

(*3) 「ピケティの21世紀の資本」を日本は突破する 増田悦佐 著 (ビジネス社)

File: http://www.sparj.com/kojmemo/KojiMemo39_DoWorkEconomist.pdf

いつも業務に追われっぱなしで、余裕のない毎日を送っていたのが、今月にはいい、主催するイベントを中止せざるをえず、すべての会合がなくなり、参加予定であったイベントもなくなり、合唱の練習、ピアノのレッスンもなくなり、時間が有り過ぎて・・・ひとりで酒をのんでいると「わが人生、こんな程度で良いのだろうか・・・」と余計なことを考えてしまう。 KojiMemo を頻繁に発信してしまうはめになり、すみません。 2020-03-15 23:05 河村幸二